

次期 S I P ターゲット領域有識者検討会議（第 3 回）（概要）

1. 日時 令和 3 年 12 月 15 日（水） 15:00～17:00

2. 場所 ハイブリッド開催

3. 出席者

- 赤池 伸一 文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席フェロー  
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官
- 小川 尚子 一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部 副本部長
- 金田 安史 国立大学法人大阪大学 理事・副学長  
（代理：秦 茂則 国立大学法人大阪大学 教授）
- 川上 登福 公益社団法人経済同友会 幹事  
株式会社経営共創基盤 共同経営者（パートナー） マネージングディレクター
- 岸本 喜久雄 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
技術戦略研究センター センター長
- 倉持 隆雄 国立研究開発法人科学技術振興機構  
研究開発戦略センター 副センター長
- 坂田 一郎 国立大学法人東京大学 総長特別参与 大学院工学系研究科教授
- 篠原 弘道 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
- 須藤 亮 内閣府 政策参与・S I P プログラム統括
- 橋本 和仁 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
- 宮澤 伸 日本商工会議所 地域振興部長

（欠席）

- 五十嵐 仁一 一般社団法人産業競争力懇談会 実行委員長  
ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長

4. 配布資料

- 資料 1 次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第 2 回）議事概要
- 資料 2 次期 SIP のターゲット領域の設定（素案）に対する構成員の主なコメントと対応案
- 資料 3 次期 SIP の課題設定に向けて～ターゲット領域の設定（案）～
- 資料 4 次期 SIP の実施に向けて～RFI（Request for Information）等の検討～
- 資料 5 赤池構成員提出資料
- 資料 6 坂田構成員提出資料
- 参考資料 次期 SIP の基本的な枠組み

## 5. 議事

- (1) 次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第2回） 議事概要について
- (2) 次期 SIP のターゲット領域の設定（案）について
- (3) 次期 SIP の RFI（Request for Information）等の検討について

## 6. 議事概要

- (1) 事務局より、資料1に基づき、「次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第2回。以下「検討会議」という。） 議事概要」について説明を行った。
- (2) 事務局より、資料2、資料3に基づき、「次期 SIP のターゲット領域の設定（案）」について、それぞれ説明し、議論を行った。構成員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・全体として未来像からバックキャストで絵がトータルできれいに描かれていると思う。
  - ・地域課題が網羅されており、企業単独では難しいテーマなので、ぜひこの方向で進めて欲しい。
  - ・個別のテーマについて各省が個々でやるのではなく、ターゲット領域全体のデザインについてナラティブな構成が重要。
  - ・循環型社会に水資源を入れてはどうか。
  - ・「社会参画寿命が延伸している社会」とするよりは「多様な社会参画が実現している社会」としてはどうか。
  - ・例えば「フードチェーンの構築」とあるが、「フードチェーン自体」は SIP で作れるものではなく、「フードチェーン」に資するようなミッシングパーツを作るということではないか。
  - ・ターゲット領域の図について、全体の見取り図としてはよいが、例えば、ネットゼロカーボンとの関係を示す時にはそれに合わせて組み合わせるなどフレキシブルな対応と捉えるとよい。
  - ・例えば、カーボンニュートラルとウェルビーイングは密接に関連するなど、各ターゲット領域間の関連があることから取り組みの際には一体的に行うことが必要である。
  - ・AI、IoT、データプラットフォームなどは1年単位で情勢が大きく変わるため、リアルタイムに情勢をモニタリングし、修正していくことが重要。
  - ・概念的なプラットフォームだけでなく、物理的な研究データ基盤、研究施設・設備など実体的なものとの連動することが重要。
  - ・ターゲット領域は非常に広いが、社会実装するには地域性やセクター性がありカスタマイズしていく側面とそれを展開していく側面と両方がある。
  - ・共通基盤分野について内閣府側で高度化したものを持っていて、各省の取組を位置づけながらミッシングパーツとしてシナジーを出すことが重要。
  - ・RFI 等については、現業官庁のコミットメント、エビデンスベースの分析などを通じて、達成目標を検証できるレベルまで具体化していく必要がある。
  - ・記載された例はあくまで例示であって PD が決まって議論するなかで、本当に SIP でやるべきところを探っていけるとよい。
  - ・各府省でもいろんなプロジェクトが並行して進んでいるが、今回の SIP がどこと関係しているか問いかけながらプロジェクトを立ち上げられるとよい。
  - ・理想はすごく高いものを持っているが、現実的にはそういうことをできる PD が手を挙げてくれるかが課題。

・各省庁は自分たちでやるのが一番やりやすいので連携してやるというのは後回しになってしまうので、本当に各省庁が協力してくれるかが大きな問題。また、ファンディングエージェンシーが多数のプロジェクトを抱えるなかで、協力いただけるよう調整することも重要。

- (3) 「次期 SIP のターゲット領域の設定 (案)」について、コメントを反映したうえでとりまとめ、ガバニングボードに報告することについて了解が得られた。
- (4) 事務局より、資料4に基づき、「次期 SIP の RFI (Request for Information) 等の検討」について説明し、議論を行った。また、赤池構成員より、資料5に基づき、エビデンスの活用について情報提供があった。構成員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・今回の RFI がどのくらいの粒度で出してもらうのかははっきりしてもらいたい。
  - ・記載事項の中で必須項目と選択項目をまずしっかり分けないといけない。
  - ・出てきた提案が、性格が違うものがまざりすぎて 1 名の PD ではうまくいかないという時にはサブ PD にするか 2 名の PD にするか PD を選ぶ前にやらないといけない。
  - ・初めての試みということもあって RFI を募集する際に相当丁寧な説明が必要であると思う。
  - ・総合知を活用したような、領域をまたぐ取組について提案していただくことを併せて進めたらどうか。
  - ・RFI は、PD がこれから 1 年かけて研究構想を検討する際の重要な情報を集めるものと明確にした方がよい。
- (5) 「次期 SIP の RFI (Request for Information) 等の検討」について、構成員からのコメントを踏まえ RFI の具体的な方法は引き続き検討を行うこととしたうえで、RFI 等の実施についてガバニングボードで報告することについて了解が得られた
- (6) 次回は、RFI の結果がまとまり、PD 候補の応募要件を整理できたところで、来年 3 月中旬頃に開催することとなった。